

阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

< 噴火警戒レベル 2 (火口周辺規制) が継続 >

本日(25日)、中岳第一火口で小規模な噴火が発生しました。この噴火による降灰は、同火口から東側約 30km の大分県竹田市にかけて確認されました。今後も噴火が繰り返し発生する可能性があります。

【防災上の警戒事項等】

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降る恐れがあるため注意してください。

噴煙など表面現象の状況(図 2 ~ 4)

阿蘇山では、本日(25日)10時11分頃、中岳第一火口で小規模な噴火を阿蘇火山博物館の火口カメラで確認しました。12時00分には灰白色の噴煙が火口縁上 500mまで上がり、東に流れているのを現地調査で確認しました。噴火は19時現在も継続している模様です。

本日、福岡管区气象台、熊本地方气象台、大分地方气象台が実施した現地調査及び聞き取り調査の結果、中岳第一火口の東側にあたる熊本県阿蘇市波野から高森町及び大分県竹田市(中岳第一火口の東側約 30km)の一部にかけての範囲で降灰を確認しました。

阿蘇火山博物館の火口カメラでは火炎¹⁾を確認しています。

地震や微動、地殻変動の状況(図 5 ~ 8)

火山性微動の振幅は本日 07 時頃から大きくなり、19 時現在もやや大きい状態が継続しています。火山性地震や孤立型微動²⁾は、多い状態で経過しているものと推定されます。

GNSS³⁾連続観測では、古坊中 - 長陽(国)の基線にわずかな伸びの傾向が認められます。また、傾斜計では本日 06 時過ぎから火口上がりの変動を観測しています。

火山ガスの状況(図 5)

18日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり2,600トンでした。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>)や気象庁ホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号:平 23 情使、第 467号)。

- 1) 高温の噴出物が炎のように見える現象です。
- 2) 阿蘇山特有の微動で、火口直下のごく浅い場所で発生しており、周期 0.5~1.0 秒、継続時間 10 秒程度で、中岳西山腹観測点の南北動の振幅が 5 $\mu\text{m/s}$ 以上のものを孤立型微動としています。
- 3) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

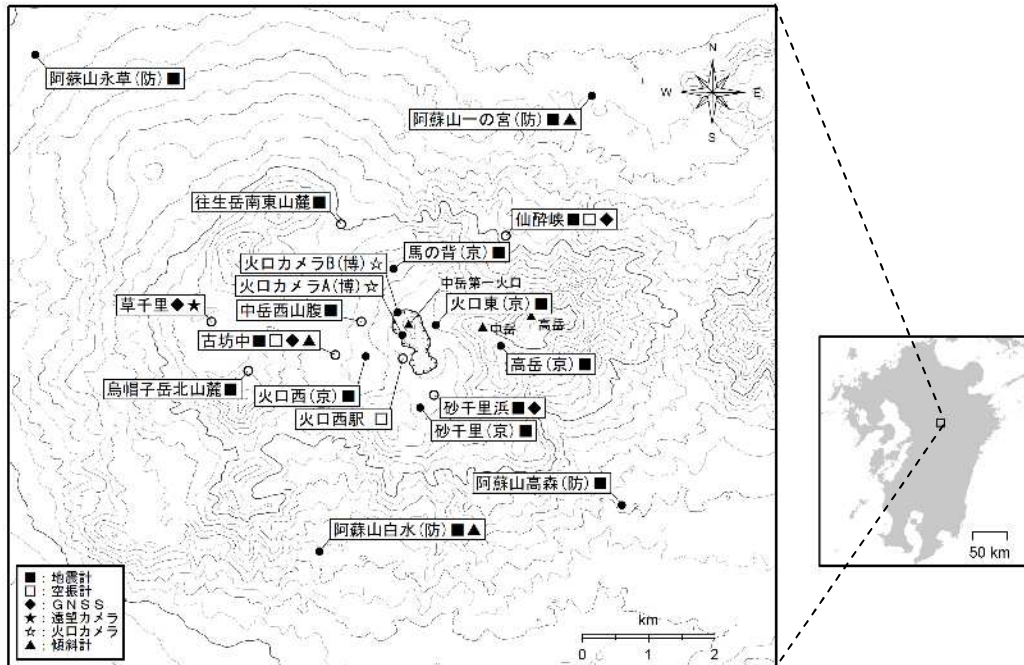


図 1 阿蘇山 観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(京)：京都大学、(防)：防災科学技術研究所、(博)：阿蘇火山博物館



図 2 阿蘇山 阿蘇市役所からの噴火の状況 (25 日 13 時 30 分頃・阿蘇市役所提供)
噴煙は火口縁上 500m まで上がり、東に流れました。

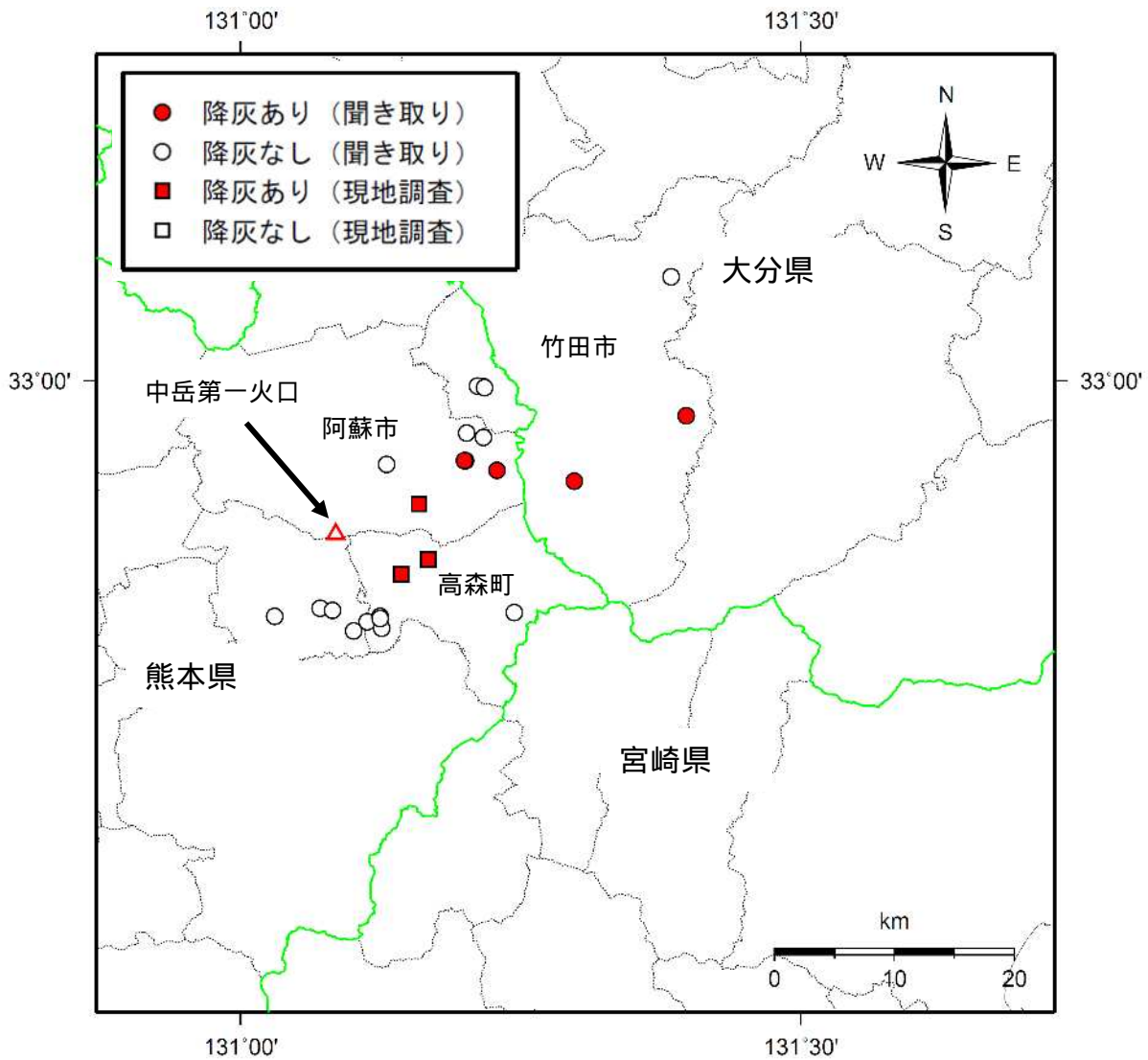


図 3 阿蘇山 噴火に伴う降灰の調査結果

福岡管区气象台、熊本地方气象台、大分地方气象台が実施した現地調査及び聞き取り調査の結果、中岳第一火口の東側にあたる熊本県阿蘇市波野から高森町及び大分県竹田市（中岳第一火口の東側約 30km）の一部にかけての範囲で降灰を確認しました。



図 4 阿蘇山 第一火口内の状況（25 日 16 時 29 分・阿蘇火山博物館の火口カメラによる）
本日（25 日）16 時頃から火口内において火炎を確認しています。

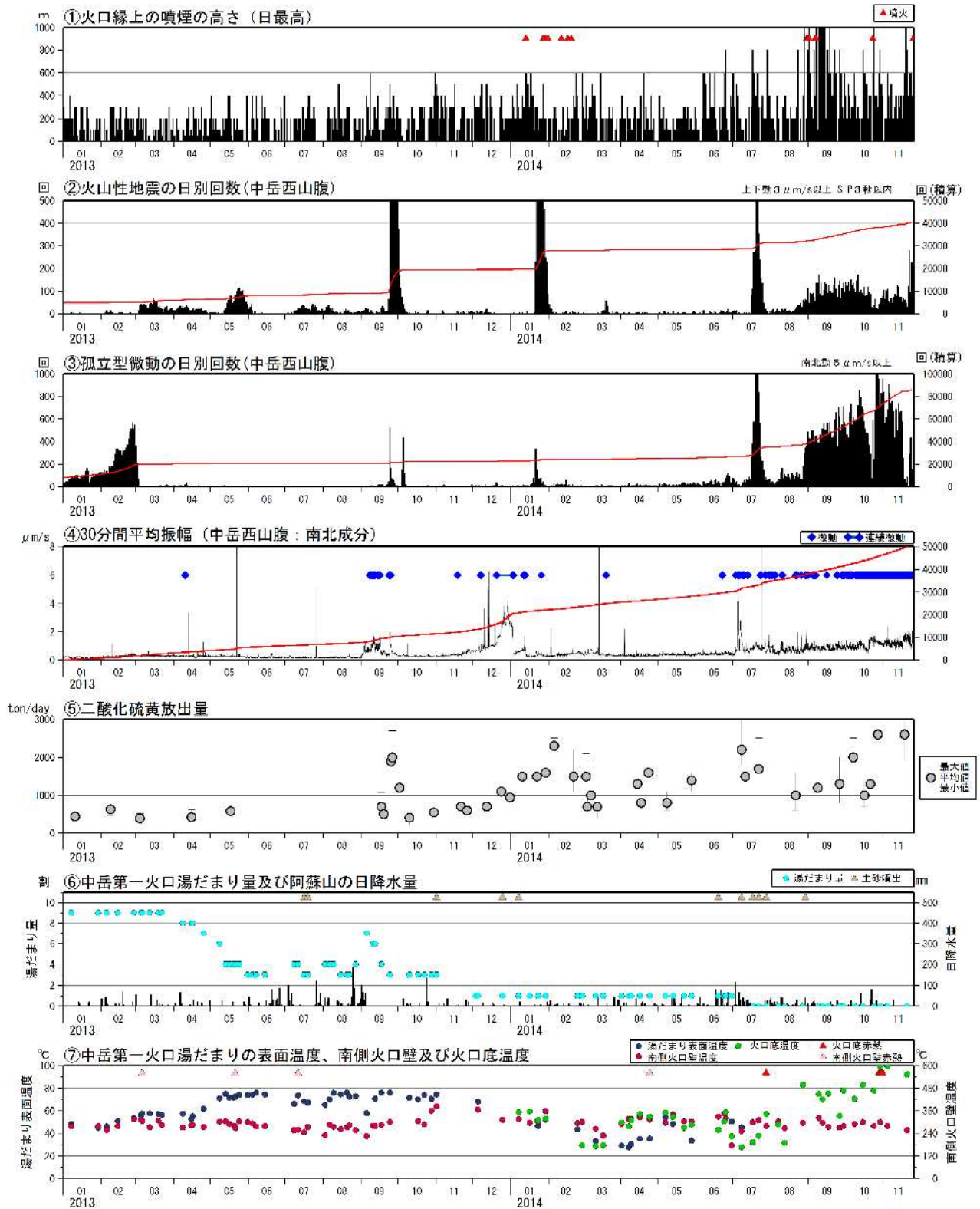


図 5 阿蘇山 火山活動経過図 (2013 年 1 月 ~ 2014 年 11 月 25 日 15 時)

- ・火山性地震と孤立型微動は多い状態が続いていると推定されます。火山性微動の振幅は時々大きくなっています。見掛け上、孤立型微動と火山性地震の回数が少なく計数されています。
- ・11 月 18 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は引き続き多い状態でした。

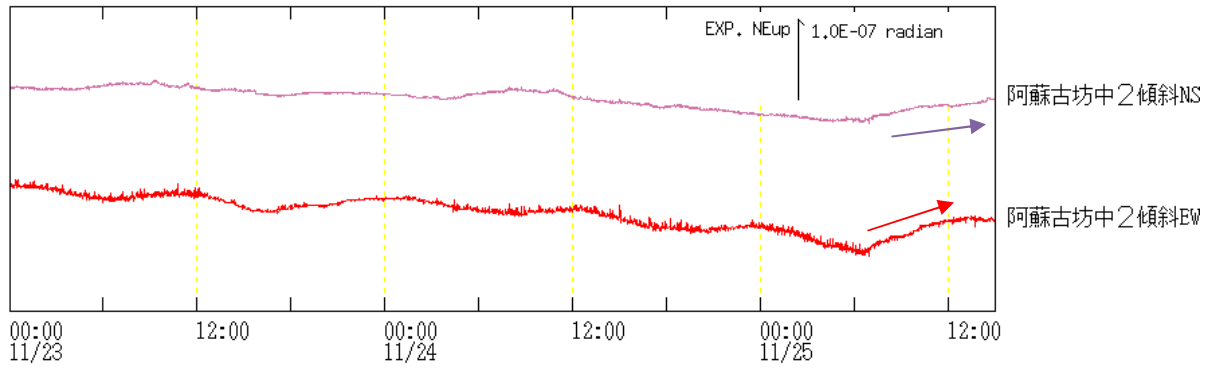


図 6 阿蘇山 傾斜計による変化 (2014 年 11 月 23 日 ~ 25 日 15 時)
傾斜計では 06 時過ぎから火口上がりの傾向が認められます。

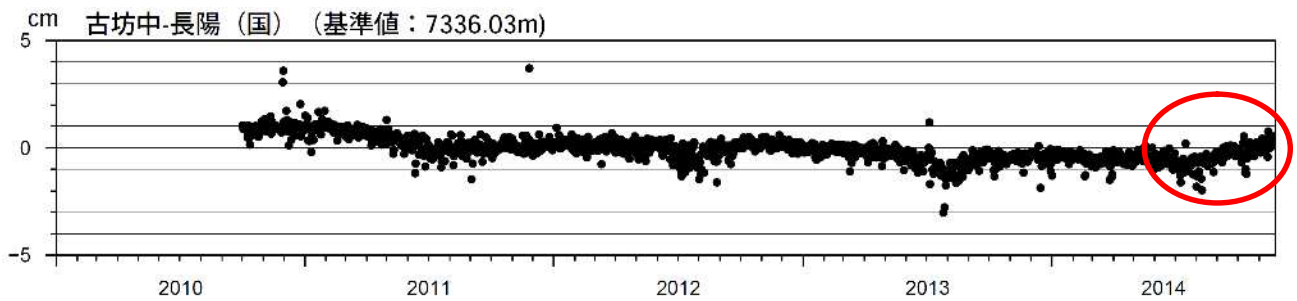


図 7 阿蘇山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2010 年 10 月 1 日 ~ 2014 年 11 月 24 日)
古坊中 - 長陽 (国) の基線にわずかな伸びの傾向が認められます (赤丸)。
この基線は図 8 の赤い線に対応しています。

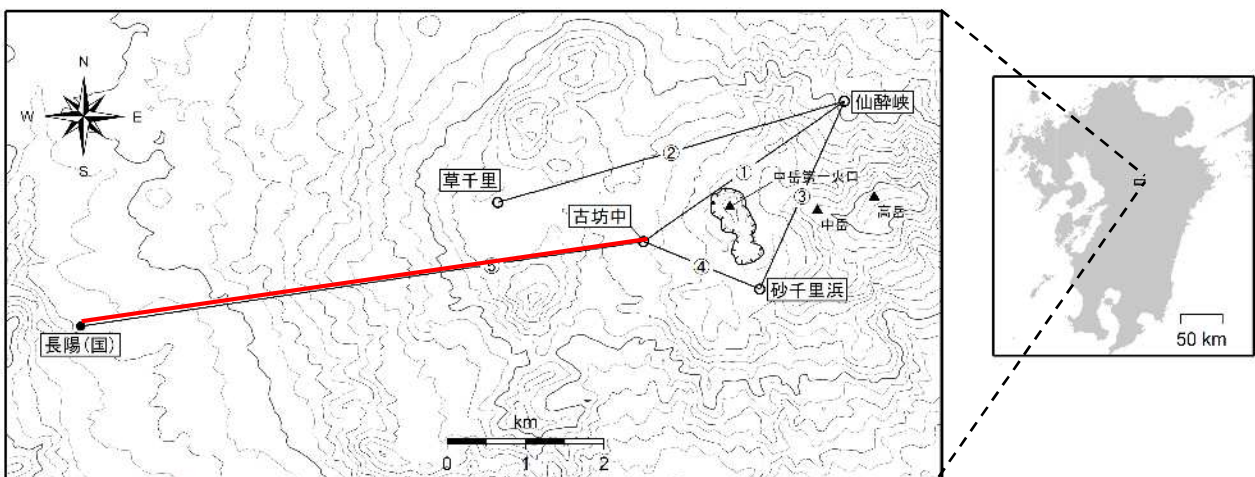


図 8 阿蘇山 GNSS 連続観測点
小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院